

VOL. 13  
APRIL  
2022

# News Letter

宇都宮大学国際学部・国際学研究科  
同窓会東南アジア支部

宇都宮大学国際学部・国際学研究科同窓会東南アジア支部は  
同窓会本部承認のもと2017年8月に創設されました。  
東南アジアをこよなく愛する同窓生のネットワーク再構築を  
目指し2017年9月よりニュースレターを発行しています。  
このニュースレターが 一人でも多くの同窓生に届き  
ネットワーク が広がっていくことを切に願っています。

## CONTENTS

表紙写真) タイのくじ引き「ソーイターオ」

- 1) ご挨拶 2) お知らせ 3) 連載コラム ～タイの昨今(第13回)～  
4) 新年度企画 5) 連載コーナー→トコロ変わればザ★談会(第6回)  
▶狙え! インスタ映え!?(第9回) ▶ともに感じる東南アジア(第9回)



## 1. ごあいさつ

コロナ禍3年目を迎え、コロナワクチン接種の広がりによりWITH COVIDを前提に徐々に元の生活に移行している国が増えてきた今日この頃。皆さんいかがお過ごしでしょうか。この2年間はコロナに右往左往させられた日々でしたが、3年目はコロナ禍で確立された働き方、過ごし方をベースに、臨機応変に日々の生活を楽しんでいければいいなと思います。海外渡航の規制緩和も進んでおりますので、東南アジアに赴任される同窓生がいらっしゃいましたら、是非ご一報いただけたら嬉しいです。今年度もさらにネットワークを広げるべく活動を続けていきたいと思っておりますので、今後ともご声援の程よろしくお願いたします。

(東南アジア支部事務局 大畑美優紀/タイ在住)

## 2. お知らせ



こちら時々雪が降る東北より、遅ればせながら帰国のご挨拶をさせていただきます。

コロナの猛威により、予想だにせず勤務開始5ヶ月目で日本に帰国。分厚いセーターを着て、夏服の社員の方々とオンライン会議をする日々が続き、気づけばインターンも終了となりました。タイではロックダウンの中でも、タイ料理やトロピカルフルーツ等、日常の中に小さな楽しみを見つけながら過ごせました！また、インターンシップを通し、地域国際機関の活動や役割、日本の東南アジア地域への貢献について学ぶことができました。しばらくは日本での生活になると思いますが、今後ともよろしくお願いたします。

駒形 麻朋実 (22/3/15)



## 3. 連載コラム

### タイの昨今～第13回～

息子の21年度は、オンライン授業の継続により、勉強も、友達との交流も全てオンライン画面を通して成立した1年間でした。もともと友達が多い方ではなく、プライベートで友達との接点手段も持たない息子だけに、長引くオンライン期間をどう過ごしていくのか親としても心配でしたが、ふたを開けてみると、なぜか友達が増えていました。「オンラインゲーム」の恩恵です。ただそこには「新しい友達はクラスメイト、でも学校では話したことがないし、顔も思い浮かばない」という奇妙な世界が。実は、一昨年度の小4年時のクラス替えにより新しいクラスメイトができたのも束の間、コロナの影響で半年しか登校できず、小5年時も新学期からオンライン

授業に突入してしまったため、2年間同じクラスと言えどほとんどの子の名前と顔が一致しないという状態が起きてしまったのです。新しくきたゲーム仲間「何組？」なんて聞くと、「同じクラスじゃん」「席はキミの後ろだったけど話したことなかったね」なんて答えも(笑)。2年間クラスメイトだけれども、オンラインゲームで「はじめまして」というわけです。

さて、そんな奇妙な1年も終わろうとしていた2月後半、年に一度行われる一昨年度成績優秀者への表彰式が学校で開催され、息子も5年生になって初めて登校する機会に恵まれました。そんな表彰式への出席は親にとっては光栄なことですが、息子にとっては表彰

### ～オンライン世代の子供たち～

よりも嬉しいことが待ちました。1年ぶりの親友との再会です。この1年間、親友との会話もオンラインゲームを通してのみ。直に顔を見て対話することなんて本当に1年ぶり。二人とも初めは照れながらも徐々に打ち解けたようで、表彰式後二人で向き合いながらお菓子を食べる姿はまるで恋人同士のようにもありました(笑)。ゲーム内で仲良くなった名前しか知らなかった友達にも初めて直にご対面できた様子。

息子の久々の笑顔に目を細めながら、改めて新学期の登校授業の再開を切に願うのでした。(大畑)



4. 新年度企画

21年度を振り返り22年度への新たなる抱負を誓う  
東南アジアメンバーアンケート企画

ゆく年 2021年度われらの反省会

われらの  
ゆく年  
くる年

**(21年度抱負)** WEB会議システムに慣れ、仕事で効果的に利用することができるようになることかなあ。中国のキャッシュレス生活(電子決済、なんでも宅配サービス)にはかなり慣れてきました。結構使いこなせてます!! (田邊)

オンラインセミナーへの出講は結構やりました。その都度WEB会議システムも利用しているのですが、如何せん自分で主催しないとだめですね。参加者を小部屋に振り分けたりするのはいつも人にお任せ。

**(21年度抱負)** 外出が減って歳出削減を図れましたが、一方で運動不足による贅肉歳入は増加の一途です。糖質、カロリー、プリン体、脂質などの削減も頑張っていきたいです。(佐々木)

「健康に留意する」という主旨とは真逆の結果となり、大いに反省している今日この頃です。

**(21年度抱負)** 危機を好機に。家庭では普段持てないゆっくりした家族との時間を増やしたいですね。業務では、普段できない仕事にあえてチャレンジしていきたいです。(谷澤)

振り返りますと、結局なんだかんだと忙しくしてしまい、家族との時間を増やすという目標はまるで達成できておりません…。仕事がないよりマシなのかも知れませんが、反省です。。。

**(21年度抱負)** 通常状態に戻ってきた時に訪れるだろう、リバウンド物欲をいかに制御していくか! (大宮)

買出し先のスーパー巡りが一巡し、コスパの良い業務用スーパーを見つけ物欲とバランスを取っています。

**(21年度抱負)** 断捨離や荷物の整理をしてすっきりした環境の中でおうち時間、家族との時間を充実させる1年にしたいです。(大畑)

昨年4月から11月まで夫婦共にテレワーク、息子もオンライン授業と、おうち時間がほとんどを占めた21年度でした。無駄買いでモノも増やさず、すっきりと、おうち時間を満喫できました。

**(21年度抱負)** チェコは制限ある中でもストレスを溜めない程度に皆さんある程度緩い感じでギスギスしておらず生活しやすいです。他の西の国のように制限に関してデモはありますが暴動はありません。時期活発な元の生活に戻ると思いますのでそれまでこのある程度ゆったりした時間に甘えて自分のために時間が使えたらいいな、と思います。(當真)

思いの外欧州はコロナを引きずり自粛時間が多かったのですが、家での自粛が窮屈になり、人との接触が少ないアクティビティとして近所の共同農園で猫の額ほどの畑を借り農業らしきものを始めたことが自分成長の大収穫でした。

くる年 2022年度われらの抱負

年末に購入した北京市内博物館年間パスで最低でも元は取るぞー! 新幹線でラオスへ行くぞー! ラオスの口座に残している1000ドルで豪遊するぞー!  
(田邊)

健康第一に、1日1日を大事に過ごすぞー!  
(知念)

コロナも終焉を迎え、徐々通常の生活に戻っていきだろう変化を見極めながら生活するぞー! なんでもネット検索で済ませるだけでなく、本を読む習慣を身につけるぞー! 今年こそはそろそろ日本に一時帰国して、家族に会うぞー!  
(大宮)

2022年抱負御朱印帳を持って、出羽三山参りとお伊勢参りに行くぞー! そしてまた東南アジアに旅行に行くぞー! 早くコロナが収まりますように…  
(駒形)

英語のヒアリング力をつけるぞー! 子供の日本語能力の目標を達成させるぞー! 出不精にならずタイ国内旅行も楽しむぞー!  
(大畑)

2000m級の山に登るぞー! 今年こそは旅行に行くぞー! ゴルフで100を切るぞー!  
(佐々木)

オンとオフをしっかりと分けるぞー! オフは再開したパレエに行く時間を確保するぞー!  
(原)

世界情勢が非常に不安定になっていることもあることから、ここ数年先への転居に真剣に取り組むぞー! コロナでここ数年叶わなかった親孝行するぞー!  
(當真)

5. 連載コーナー

住まいの地域事情を語り合うコーナー

トコロ変われば  
ザ★談会

Thailand

大宮さん  
バンコク在住

以前よりは街中で観光目的らしい外国人観光客を見かけることは増えてきましたが、コロナ前のような団体ツアー観光客は戻って来ていません。中国からのツアー向けお店は軒並み閉店中。

タイでは入国制限が緩和され、入国後一泊し、その間にPCR検査で陰性となれば、自由に行動できるが、費用負担があるのと、入国前にワクチン接種証明など提出が必要となり、気軽に観光に訪れる段階からは遠いです。

国内旅行を促進するキャンペーンがあり、ホテルの宿泊代、飲食代の割引があり、国民の旅行気分は高まっています。ただ、昨今オミクロン株感染者が日に日に増加傾向にあり、政府の規制は緩やかながら、自粛する人も多いと思います。外国人観光客が減ったことで、特に南部のリゾートは綺麗な海が戻ってきており、一度は行ってみたいと思っています。

特に大きな変化はないですが、国内旅行促進キャンペーンはとてもお得で、これまで高くてなかなか検討できなかったホテルを気軽に利用できる点は魅力的です。また、世界的な流れもありますが、支払いのコンタクトレスがコロナ禍で一気に進み、多くの店でオンライン決済できるようになったと感じています。財布に入れる現金が前より減りました。

第六回のお題は、こちら！

あなたの地域のコロナ禍下観光事情  
(3月20日時点)

China

田邊さん  
北京在住

ゼロコロナ政策で1人の陽性者も見逃さない体制をとっているせいで、外国人観光客の入国は基本的に認めていません。これがもう2年以上も続いているので、ホテル側も公安局にいちいち届けを出さなければならぬ面倒な外国人を受け入れてくれないところも増えているように感じます。安宿はネットで宿泊予約が完了していても、当日着いたら宿泊を拒否されることもありました。田舎旅行がやりにくくなっています。北京冬五輪も関係者は完全バブル方式で、国内招待客も運営ボランティアも2週間の隔離を経ないと家へ帰れないと聞きました。

入国は厳しく制限されていますが、すでに入国済みの外国人は自由に旅行できます。もちろん国内旅行の中国人も自由です。昨年1-9月期の国内旅行者は延べ26億8900万人、これは2019年同期比58.5%にまで回復したことになるそうです。ただし、ひとり感染者が出ると48時間以内のPCR検査を受けないと域外へ出られなくなったりします。また、これまで感染者がひとりも出ていないような田舎の村では外からの観光客を歓迎しないような空気があるところもあると聞きました。

最近はおミクロン株が入ってきてゼロコロナが崩壊の危機で、また規制が厳しくなっています。各地方政府が独自の規制を設けているので、出かけるときは行き先の地域にどのような規制があるのか調べる必要があります。本稿執筆現在(3月後半)は基本的に自由な旅行ができない状態です。なので、みんな自分の町を見直したのではないのでしょうか。域外に出るのが難しくなり、自分の居住エリアの観光資源を再発見する人が増えているかもしれません。北京の観光スポットも北京人でいっぱいです。

Czech

当真さん  
プラハ在住

チェコは2月から徐々にコロナ対策緩和を進めてきており、現在では多くの所で接種の有無も検査結果も必要なく、マスクの義務も公共交通機関、医療社会福祉施設以外は撤廃されたことから国外からの観光客がチェコを訪れて楽しめる環境が整ってきたこともあり外国人観光客は確実に増えている印象です。

これから欧州はイースターホリデーが4月に控えておりますのでチェコを始め、欧州内で大移動が予想されます。

暖かい春を感じてきたこともあり、国内の観光地も以前ほどではないものの活気を取り戻している感じがします。国内の各地でコロナ検査義務は撤廃されておりますが飛行機で何処か移動しようと思うとまだ検査証明が必要なのでその分簡単に移動できる国内観光が暫くは賑わうと思われれます。観光が停滞していた2年分、今年は弾けるように、国内イベントが盛り沢山のようです。

まだ人混みが心配な方も多く、家族や気の知れた友人たちと\*別荘滞在を楽しんだり、こじんまりとした旅行を好む傾向にあるようです。  
\*チェコは社会時代に外国に容易に行けなかったり、自分達が望む野菜、果物が店頭で無く供給が難しかったこともあり家族、親戚で別荘をシェアし、郊外に別荘(古屋のようなものから普通の家までタイプはそれぞれ)を持っている家族が多いです。

コロナ禍3年目に入り、規制方法も度合いも各国それぞれとなってきました。しかしながら緩和はされてもやはり以前のように気軽に海外へ、というにはまだ時間がかかりそうです。行動範囲が限られる中で、居住エリアの見どころ再発見！自分の国・地域の良さを見直すよい時間ともなりそうです。

外国人観光客の戻り具合は？

国内の観光地の様子は？

旅行の楽しみ方に変化は？



# インスタ映え!?

アジア取材雑記  
第9回

## 空前の“スズブーム”がもたらす現実

今回の1枚は、目にも鮮やかな水色の湖です。「スズ鉱山の跡地に水がたまって、いつの間にかこんな色になったんだよ(住民)」。撮影した場所は、インドネシアのスマトラ島東岸に浮かぶ、パンカという島です。放置された採掘場の跡地がたまたま観光名所になりました。実はパンカ島、世界有数のスズの産地として知られ、グローバル・サプライのなんと3割近くがこの島で産出・輸出されると言われています。あらゆる電化製品に使用されるスズ。特に近年はスマホやPCによる需要が旺盛で、価格も史上最高値を記録し、市場はブームに沸いています。その一方、島のあちこちで見られる、巨大なクレーターの様な採掘の跡地…そこに植生が戻ることはまずありません。更には、陸上の資源が枯渇し始め、野放図なスズ採掘は海中にも広がっています。鉱石を探して海底を掘削機で削り取るため、土砂がサンゴ礁に壊滅的な被害を与えます。「大地を傷つけ放置するだけでなく、ついには私たちの海までもが犠牲にされ始めた。だが、スズ需要は高まる一方で、成す術はないね…」と力なく語る地元の海洋生物学者。自分のスマホも、この環境破壊の遠因なのか。写真を撮る手が止まる一瞬です。###

(谷澤壮一郎/インドネシア在住)



皆様こんにちは。TVディレクターの谷澤です。性懲りもなく、インドネシアで這いつくばりながら番組・ニュース企画の取材を続けております。

タイに留学していた大学3年の春、友人の実家のあるベッチャブリー県にて初めてタイ正月ソンクラーン祭(水かけ祭)を体験した時のひとコマ。ピックアップトラックの荷台に乗り込む敵陣に向け、桶の水を一心不乱に浴びせかける二十歳の私。25年たった今もあの時の光景が新鮮によみがえるいい思い出です。

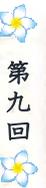


一九九七年四月十三日  
タイ・ベッチャブリー県にて

大畑 美優紀

ソングラーン  
本気で挑む

懐かしの一枚  
ともに感じる東南アジア



第九回

※今号から「懐かしの一枚」として、東南アジアでの懐かしい写真をメンバーからお届けします※

### 東南アジアへの想いを共に発信していく仲間(国際学部・院同窓生)を募集しています!

東南アジア域内在住同窓生・元留学生・東南アジア域外在住で東南アジアに関わりたい、関わっていききたい同窓生(通称ファンクラブ)の皆様など、興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひ事務局兼ニュースレター編集係 大畑 (miyukiohata@gmail.com)までご連絡ください。

数多くの同窓生からの声をお待ちしています!

現メンバー(15名) ▶大畑美優紀 95・マリー/藤田研究室 ▶田邊知成 96・小池研究室 ▶ROMANOV(當眞) 里絵 96・佐々木(史)研究室 ▶栗林(泊) 祥子 96・梅木研究室 ▶平田 勝博 97・友松研究室 ▶本間 みずほ 97・田巻研究室 ▶原理恵 98・藤田研究室 ▶谷澤 壮一郎 02・石浜研究室 ▶大宮 勇樹 06・マリー研究室 ▶知念(高田) 知佳00・田巻研究室 ▶諸頭(岩山) 晴奈05・阪本研究室 ▶小沼 洋子 97・藤田研究室 ▶藤井満春 00・友松研究室 ▶佐々木哲夫 99・藤田/中村(祐)研究室 ▶駒形麻朋実17・田巻研究室 (※数字は入学年度)